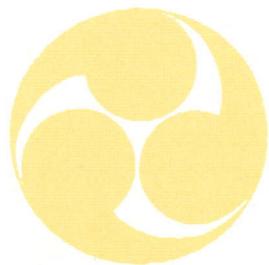
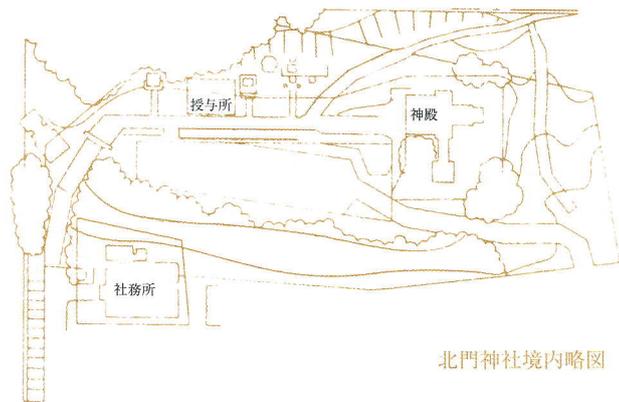


稚内総鎮守 北門神社



境内のエゾヤマザクラ



北門神社境内略図

北門神社社務所

〒097-0022 稚内市中央1丁目1番21号

電話(0162)22-2944 FAX(0162)22-2945

交通/JR稚内駅から徒歩7分

いにしえの神々を祀る

巖かなる杜



六角形神輿



稚内稲荷神社



太平山三吉神社



狛犬(左)



狛犬(右)

忠魂碑



並木凡平歌碑

「八十段登りきはめて
北門の社にひらく
宗谷海なき」



神符守札授与所

たけみかづちのかみ
武甕槌神

武勇の守護神。国譲りの条では、出雲国に降りて大国主神に国譲りを迫る。

御祭神

あまてらすすめおほみかみ
天照皇大神

至高至貴、宏大無辺なる御神徳は日神と称えられる。ご皇室の大御祖神。

ことしろぬしのかみ
事代主神

八重事代主の神ともいう。大国主神の御子神大漁豊漁の守護神であり、えびす様として知られる神。

北門神社 由緒・沿革

北見の国は昔、奥地蝦夷といつて茫々とした山岳と原野が連なり、海浜や河岸に僅かに原住民が居住していたが、旧松前藩主が広く北海道を統轄するにおよび、徴税のため天明五年に能登の人、村山伝兵衛が藩の請負人となって宗谷に在駐の際、人心の安寧と北方警護の守護神として、伊勢の皇大神宮を奉斎する小社を建立して、宗谷大神宮と称したことが創祀と伝えられる。

その後代々運上屋に引継がれて、明治二十九年七月十五日、在来の古社を稚内村字ホロキノブ（現在地）に移し、武甕槌神・事代主神を合祀して北門神社と公称し、ご神威を輝かすに至る。明治三十五年社殿新築落成。大正二年社殿再建落成。昭和八年九月三十日郷社に列せられる。昭和五十三年社殿神輿殿落成。翌年社務所改築竣工す。例祭日は七月五日であり、当日盛大な神輿渡御の神事がある。



例祭神輿渡御七月五日



節分祭豆まき行事
二月三日



ドンド焼き行事 正月

祭事暦

一月一日	歳旦祭 <small>としごちまつり</small>
一月三日	元始祭 <small>もとぞろまつり</small>
一月十五日	古神札焼納祭 <small>ふるかみづかやきくわまつり</small>
二月 <small>立春の前日</small>	節分祭 <small>せぶんまつり</small>
二月十一日	紀元祭 <small>きげんまつり</small>
二月十七日	祈年祭 <small>いのねまつり</small>
六月三十日	大祓 <small>おほはらい</small>
七月五日	例祭 <small>れいまつり</small>
十一月二十三日	新嘗祭 <small>にいなめまつり</small>
十二月二十三日	天長祭 <small>てんぢょうまつり</small>
十二月三十一日	大祓 <small>おほはらい</small>
十二月三十一日	除夜祭 <small>とじまつり</small>

むらやまでんべい
村山傳兵衛について

北海道開拓の黎明期、力を持つ商人は場所請負人と称し各地で交易を行っていました。村山家は能登国羽咋郡安部屋村の出身で、早くから松前に土着して誠心誠意、その経営にあたりました。特に三代目の傳兵衛は宗谷以北の場所を積極的に開発し、勢力をのばしたと伝えられています。後年、松前藩の謀略にあって没落しましたが、文化十年一月八日、七十六で長逝しました。因に、北海道神宮境内に鎮座する開拓神社三十七柱の御祭神の一柱に祀られています。

『北の先覚』より